

鳴門市まちづくりデザイン会議

第 3 回

議事

- (1) 前回の振り返りと現状報告
- (2) アンケート調査（中学生）
- (3) 都市構造と都市軸・駅とまちの関係
- (4) 今後の会議の進め方



令和7年8月9日
鳴門市役所2階大会議室

第2回会議の概要

第2回 鳴門市まちづくりデザイン会議を開催

第1回デザイン会議より次回会議での報告とされた、若い世代へのアンケート及び活用方法や制度、都市構造と都市軸および交通量調査について議論したほか、市が現在行っている事業の紹介も行いました。

参加委員：内藤座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、安宅委員(代理：浜様)、池田委員

現状報告

鳴門駅西側にあるキョーエイ鳴門駅前店が、5月末で閉店
鳴門センター街が所有するビルに入居していたテナント等は、全て退去された
所有者によると、活用方法は未定だが、今後、検討していきたいとのこと。

- ・大変残念に感じているが、あくまでも個人の持ち物で、あれこれ言うのはどうか。
- ・駅前の重要な場所ではあるが、所有者がいない中、本会議で議論するのはどうか。
- ・色んな要素が重なっている。民業であり、基本的には関与できない範囲のこと。
- ・多くの方と話をした。皆さんまちのことを思っているからこそ、色んな意見がある。
- ・デザイン会議は、基本的にはこの話とは分けて、もう少しまち全体、中心市街地全体をどうするかということを一生涯頑張る。中心市街地の基礎体力をどうするか、そこに話を向けた方がよい。
- ・不便になる方もいることから、野菜とか日用品だけでも売場所が臨時でもあればいいのではと、市民感情としては思う。
- ・中長期的に見ると、大事なポイントとなる場所ではある。会議としては、その動向を注視していく。
- ・まちの中にいい風を吹かせていく、街なかのイメージをみんなで作っていかねばならないと思う。



第2回鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録 概要版

会議の日程

- 第1回 令和7年3月24日(月) 済
- 第2回 令和7年6月13日(金)
13時半～15時半
鳴門市役所2階大会議室
- 第3回 令和7年8月9日(土)
今年度中に2回程度開催を予定



第2回会議の様子

アンケート結果の報告

本年4月～5月に実施したアンケート結果を事務局より報告
対象者：①小学生(児童クラブ訪問調査) ②市内高校生(web調査)
③夕暮れマルシェ(街頭調査)
調査内容：駅前周辺で欲しい施設、普段よく使う施設など
回答件数：1,135件 ※ 結果の詳細は、会議資料2、3-1、3-2、4 を参照

【アンケート結果を受けての意見】

- ・中学生はこれからどうしようかって世代、是非、話を聞いてきて報告して欲しい。
- ・高校生では、鳴門駅周辺に用事がない、魅力がないとの回答が圧倒的に多かった。
- ・友達と気軽に遊べる場所、誰かと触れる空間を高校生は求めている。
- ・高校生は、市外から鳴門に通う割合が多く、定期券を持っていたり、週末、鳴門では過ごさない。逆に、立ち寄る場所があれば、集ってくる状態を作れるのでは。
- ・高松駅周辺では、4車線の道路を2車線にして歩道を作ったり、所々にベンチを置いたり段差を設け、学生が座ったり食べたりしている。仕掛け作りは色々ある。
- ・まちが人を受け入れるメッセージなり気配があると動きが出てくる。鳴門には、足湯はあるが、今のところ若い人が集まる感じ、そんなメッセージにはなってない。

- ・イベントスペース、スタバ、おしゃれなカフェが欲しい、そんな意見が多かった。
- ・駅の近くに撫養川がある。まちづくりと川を結び付けることを、大きい視点として組み込みたい。通行量が殆どなくもったいない。歴史的な事もPRできれば良い。権限的に市で手が出せないところがあり、県と一緒にやっていく必要がある。
- ・小さい子も高校生も、ドラックストアはもういらなくなるとか、痛い所を突いてくる。
- ・事業者は予め出店前に調査をする。コンビニがないのは交通量の流れが悪いから。
- ・他の街でも同じ結果が出そう。ゆめタウン・イオン、徳島駅2階のブリクラ、そこに中高生が集まる。鳴門の人が鳴門駅に来ることになれば、他町からも勝手に来る。
- ・鳴門は観光というコンテンツも大事。集まったり待機できる場所も欲しい。
- ・半数以上の高校生が回答しているというのは、まちづくりに興味がある証。小さな仕掛けでも人が来るポテンシャルが鳴門にはあると思う。
- ・友達とわいわいやりながら居られる場所が必要。少しずつ改善すれば、時間を潰せる場所になり得る。
- ・友達と一緒に勉強したい、待ち時間に勉強したい、勉強をネタにお喋りしたいというニーズが見える。



第2回会議の概要

アンケート結果の報告

- ・気軽に入れるお洒落なカフェのニーズが、スタバとのキーワードに集約されてる。
- ・30年くらい前の鳴門の高校生には、毎日たまる場所があったけど、今は、イベントの時だけ凄く人は来るのに、普段は本当に人がいない。駅前に芝生広場があって、イベントスペースがあれば、高校生も大人たちもマルシェも集まってくる。
- ・**おもしろがって仕掛ける人がいて初めて場所が活きてくる。裏方のソフトウェア作りの方が結構大事。**きれいな場所が出来ておしまいでは、つまんない。
- ・**他市の調査も結果はほぼ同じ。**欲しいのはカジュアルで、おしゃれで、しゃべりも勉強もしながら長時間くつろげる、色んな人がシェアできる自分の居場所。**20～30年かけて起こったことを、今度は逆方向で、再構成して仕掛けていけばいい。**
- ・ショッピングセンターは集客の努力をしてきたが、今では学生も仕方なく行っている感じがある。あそこになんで学生が、通い続けているのか、何が若者を集めているのかを真剣に考える。それに対して、街が的確に答えるというのが答え。

- ・ **小さくても日本一、例えば日本一美味しい珈琲が飲める店があれば、みんな行く。若い人のプライド誇りになる。**物事の始まりとしてはいいかもしれない。
- ・ 高校生の暇な時間、持て余している部分を我々は掴み取りたい。
- ・ 若い人の意見を実現できたら、鳴門は若い人の意見を聞いてくれるまちにつながって、鳴門が好きですという人が増える。
- ・ まちづくりの大きな話の一つとして、**若い子がまち中で、過ごせる場所をできるだけ増やしていこうというのは、本会議のテーマとして掲げてはどうか。**
- ・ 若者のプライドと、無人店舗みたいなものの可能性、その両方が見えると新しい中心市街地のあり方も見えてくる。
- ・ **ハンディのある人も街なかに出てきて、混ざり合う、コミュニケーションを取り合う、そういう街になったら凄いいい。**



都市構造と都市軸

都市構造の変遷、マスタープラン・立地適正化計画が示すまちの形、都市機能の分布状況、歩行者等交通量調査結果、都市軸案について説明

- ・ **南北の交通量は多い、東西が弱い、こういう印象。**
- ・ 商店街は、朝夕の通学の時間を入れても、あまり通っていない印象。
- ・ 地方都市で、昼間に人が歩いていないのは当然であって、どんな人が歩いているかが大事。**人数だけでなく、歩行者の質(誰が・どこへ)の方が、理解が深まる。**
- ・ 都市構造の進化に向けては、考えの整理、必要な軸、全体の軸、それらの落とし込みが大事。**現況の都市軸案をどうしていくかが、今後のメインテーマの一つになる。**
- ・ **まちの形については、完成形でなくともいいので、そろそろ少しもっていく方向性をはっきりさせていったほうが良い。**

関連事業の説明

リノベーションまちづくり推進事業、公民連携エリアリノベーション応援事業
撫養川沿いの河川空間の利活用について説明

- ・ 空き地や地域資源を活かしてエリア価値を上げていく「**リノベーションまちづくり**」に係る講演会を予定(7/5)
- ・ 民間団体との連携を図りつつ、撫養川沿いなどで**公民連携のイベント**を継続的に実施、賑わいを創出している。
- ・ 撫養川沿いでの、**河川空間のオープン化**について、管理者である県と協議中。イベント等の実施を目指す。



イベントの様子

活用方法と制度

まちづくりに活用可能な制度、制度を利用した実施例を説明
水辺を使ったまちづくりの先進地事例を紹介

- ・ インフラ整備にかかわるものは、時間がかかる。河川は調整事項も多く、調整しているうちにまちが動いてしまう。**長期・中期・短期と取組み期間毎のメニュー分けが必要。**
- ・ 手をつけられそうな所から進めて行くとして、川や道路を変えていくと、まちは本気で変わる。
- ・ デジタル世代に合わせ、通信環境などは中心市街地で、きちんと整備しておいた方がいい。
- ・ **国の補助制度を見ながら、メニューを分けて、国の補助を使って仕掛けていくことが必要。**



川を使った賑わい創出例

今後の検討・議論の方向性

- ・ 次回に向け、中学生へのアンケートを行い、報告する。
- ・ まちなかを歩く人の動向調査を行う。
- ・ 次回会議では、まちの形について、議論を進めていく。

これまでの会議で議事録や資料については、市公式ウェブサイトをご覧ください。右のQRコードからも閲覧できます。



§ 次回は、8月9日(土)午後1時30分～市役所大会議室で開催します。

商店街を1つの100円ショップに見立て、参加する全てのお店に100円コーナーを設置する事業です。平成25年から年2回開催されています。



大道銀天街に買い物に来てくださるお客さまへの日頃の感謝を込め、毎年7月に開催しているイベントで、今年で49回目になります。当日、大道銀天街は歩行者天国で大勢の人で賑わいました。



県内の先陣を切って開催され、斎田鳴門駅線や斎田撫養駅線が踊り会場となります。
周辺は、歩行者空間となり、有料演舞場周辺には多くの模擬店が並びます。



現状報告 「リノベーションまちづくり」推進事業

キックオフイベント（7月5日）

- ①「縮退の時代に生き残るためのまちづくり実践論」と題した講演会を開催（約100名参加）
⇒ 人口減少社会における「まち」の見立てや必要となる行動などの実践論を学び、遊休資産を活用を模索する人材づくりに繋げた
- ② 講演会では、四国の東北端・鳴門駅と近接する撫養港（海路への窓）を再評価。
水辺の素晴らしいロケーションを活かし、新たなまちづくりと連動した「空き地活用エリア」を設定し、リノベーション手法による周辺エリアの利活用を公民連携で仕掛けては…



講演会の様子



講師 西村 浩氏

今後の予定：地域人材の掘り起こしと対象エリアを検討する「カルティベートプログラム」

- ①人材の発掘・横連携の促進
カルティベート（＝耕す、開拓する、掘り起こす）。「まち」に主体的に関わる人（活動人口）を掘り起こすための、ヒアリングを実施。人材交流や横連携を促進、アクションの創出やコミュニティ組成につなげていく。
- ②リノベーションまちづくりの可能性のある「エリア」の調査
潜在的資源（人・歴史・文化・産業など）の発掘および活用方向性の模索。



R8年度は「カルティベートプログラム」で得た知見やネットワークを通じ、空き家を活用したい人や、新しい事業を起こしたい方を対象に、空き家をリノベーションして活用する事業を立案するためのアドバイスやアフターフォローなど、多角的な支援を行う「リノベーションスクール」の開催に向けて検討を進める。また、エリアマネジメント人材の育成やエリア価値向上に努める。



参考：まちの新たな兆しを発掘するトークイベント

中学生アンケート

調査期間： 令和7年6月30日～7月11日
 対象校： 市内中学校5校（第一、第二、鳴門、瀬戸、大麻）
 対象者： 1～3年生までの全生徒
 回答総数 956件（回答率81%）

調査内容： 放課後や休日の行動実態
 鳴門駅周辺等の利用状況・要望
 鳴門市への愛着 など
 調査方法： QRを活用したWebアンケート
 ※生徒は学校から配布されている
 タブレットにより回答

調査結果： 詳細は「中学生アンケート実施報告」を参照



まちづくりアンケート状況

第1回：市内小学校・市内高校

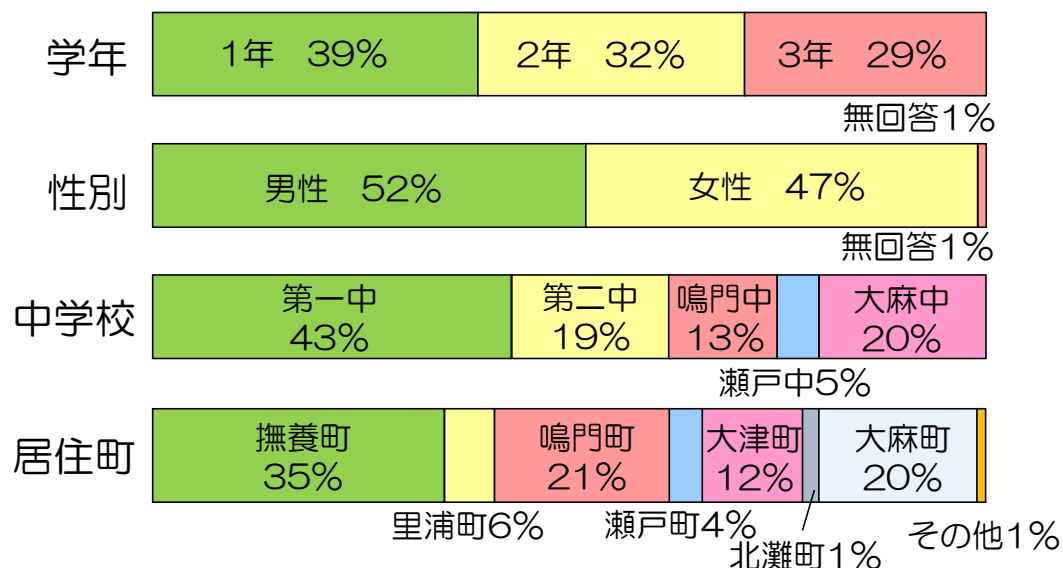
第2回：マルシェ来場者

➡ 第2回デザイン会議にて報告

第3回：市内中学生

➡ 今回報告

回答者属性



鳴門駅周辺まちづくりに関する中学生アンケート

入力フォーム

1 入力 2 確認 3 完了

下記のフォームにご入力をお願いします。

Q6. 放課後（自宅に帰った後）どのように過ごすことが多いですか？
 一番多い行動を1つ選んでください。
 ※部活動などで帰宅が遅くなる場合は、それも含めて回答してください 必須

☐ 部活・委員会活動で遅くまで学校にいる
☐ 塾・習い事に行く
☐ 家でゆっくり過ごす
☐ 友人の家へ行く
☐ 鳴門市内の店・施設へ行く
☐ その他

Q7. 放課後（自宅に帰った後）外出することはどれくらいありますか？ 必須

☐ ほぼ毎日
☐ 週に2～3回
☐ 週に1回程度
☐ 月に1回程度
☐ あったかない・ほとんどない
☐ まったくない

webアンケート フォーム

中学生アンケート

○中学生はどこで遊ぶ？

- ・ 高校生に比べ、鳴門市内で遊ぶ子の割合が高い
- ・ 遊ぶ場所では、「友達の家」や「公園・広場」の回答も多い
→ 低予算で気軽に友達と滞在できる場のニーズ

○どんな機能が欲しい？

- ・ おしゃれもいいが、安心感と安全面が大事。
→ 親が安心できる場所だと中学生も寄りやすい？
- ・ 友達と気軽に集まれる、一緒に勉強などができるフリーなスペース

○鳴門市のことは好き？

- ・ 9割以上の生徒が鳴門市のことが好きだと回答
→ 今後も鳴門市と関わりたいという意欲をもっている生徒が多い。家族、友達の存在や鳴門の自然の豊かさなど魅力が愛着につながっている。
- ・ 将来について、「まだ考えていない」生徒も一定数存在。
→ これからの経験や環境次第で、鳴門市との関わり方が大きく変わる可能性がある層。まちへの愛着を育てる取り組みを続けていくことが重要。

若者の声から見たまちづくりのヒント

気軽に立ち寄って
くつろいだり
安心して
滞在できる空間



図書館とカフェの併設

特に目的が無くても
友達と集まったり
できる場所

友達と一緒に
勉強したりできる
フリーなスペース

おしゃれなカフェや
飲食店が欲しい！



都会のカフェの一例

若者の声から見た
まちに足を運びたくなる
ヒント



コワーキングスペース

イベントやライブを
定期的に
開催してほしい！

学校以外で
色んな人と
交流できる空間



大阪駅 時の広場

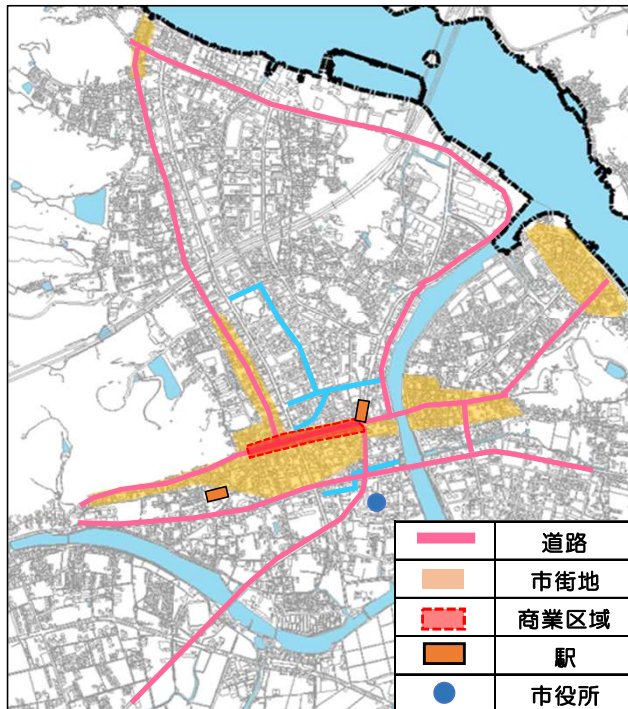
休憩したり
遊んだりできる
公園が欲しい



宮崎県日向市

都市構造の変遷

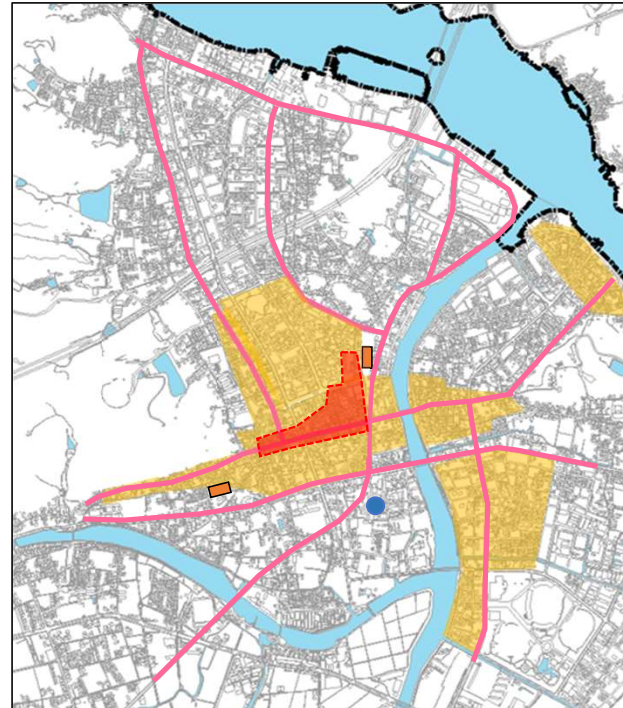
鳴門駅移転前（1960年代）



中心部に基幹的市街地

江戸時代から続く東西方向の撫養街道沿いに市街地が形成され、その中心である黒崎側への街道との交差点から旧鳴門駅までのエリアに商業区域が広がっている。駅の北側には水路があり、その向こうには塩田地帯が広がっている。

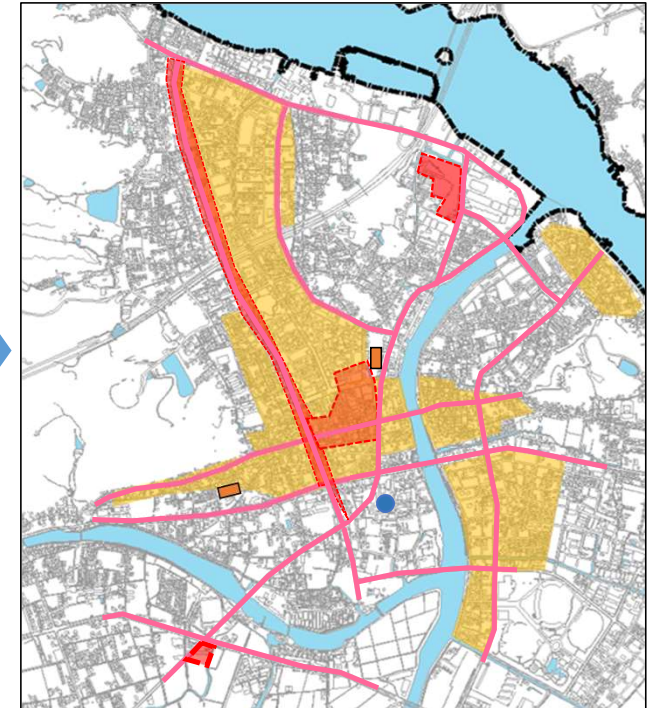
鳴門駅移転後（1980年代）



市街地が中心部から北側へ拡大

1970年に駅が北へ300m移転することに併せて、国道28号を線形改良し、直線化した。そのまちの形の変更により、商業区域は、駅西側にて南北方向に拡大している。周辺の土地区画整理事業や幹線道路の整備が進み、市街地が北側へと拡大している。

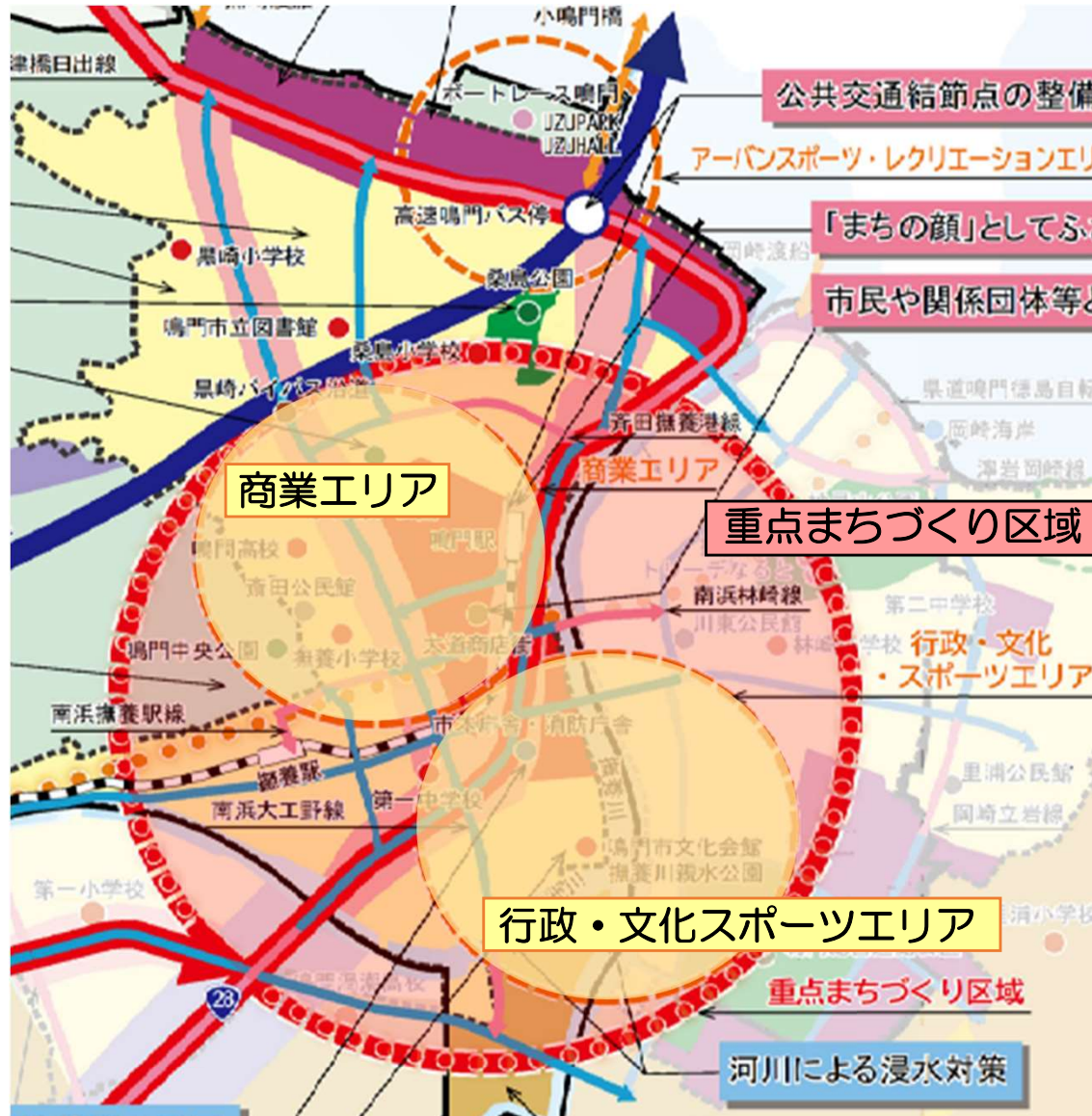
現在（2020年代）



市街地が拡散・低密度化

都市構造の変化は1995年以降では見られないが、市街地も塩田跡を利用した宅地化により南北方向に拡大していった。商業施設が郊外の街道沿いに出店することより、中心部の商業機能の弱体化が進んでいった。

都市計画マスタープランで示すまちの形



鳴門市都市計画マスタープランより川西地区の方針

商業エリア

(鳴門駅西・商店街周辺一帯)

地元商店街関係者や利用者のニーズを踏まえながら、空き店舗や空き地の活用などを進め、市の商業の中心として商店街等の活性化を図るエリア

行政・文化・スポーツエリア

(市庁舎・文化会館周辺)

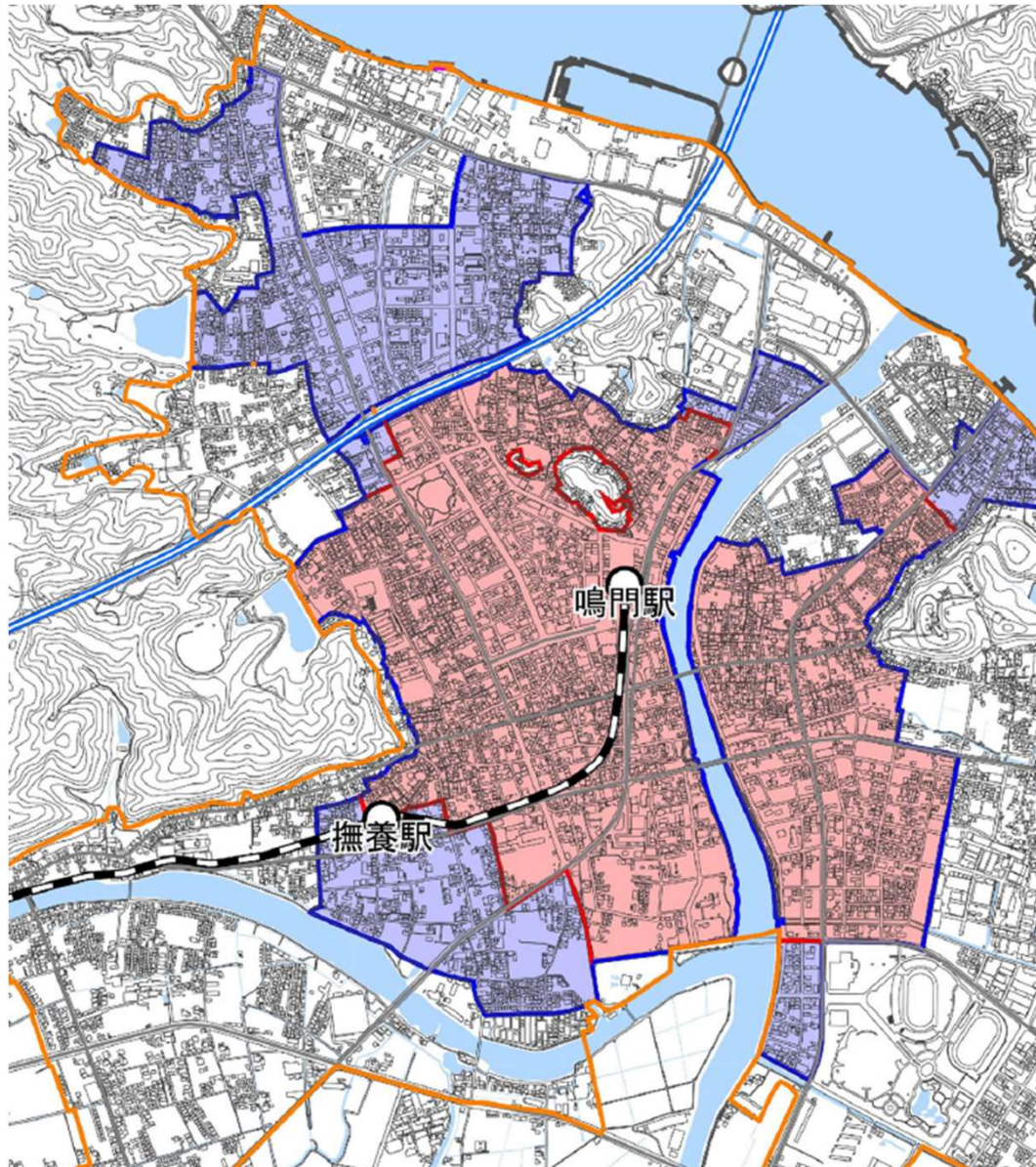
行政・文化・スポーツ施設が立地しており、既存施設の機能向上や更新・活用などを進め、市民の生活を支えるエリア

重点まちづくり区域

(鳴門駅周辺一帯)

個性的で魅力ある商業・業務機能の集積を促進し、徒歩や自転車で移動できる範囲に必要な都市機能が集積するコンパクトで歩いて暮らせる市街地エリア

立地適正化計画で示すまちの形



鳴門市立地適正化計画より誘導区域図

都市機能誘導区域

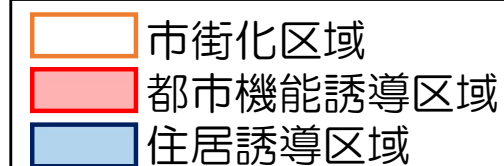
主要な都市機能を中心拠点や生活拠点に誘導し、集約することで、各種サービスの効率的な提供を図る区域として、都市再生特別措置法のほか、「都市計画運用指針」に示されている考え方や区域像に基づき設定しています。

基本方針

「鳴門らしさを活かし安全安心で暮らしやすい都市づくり」

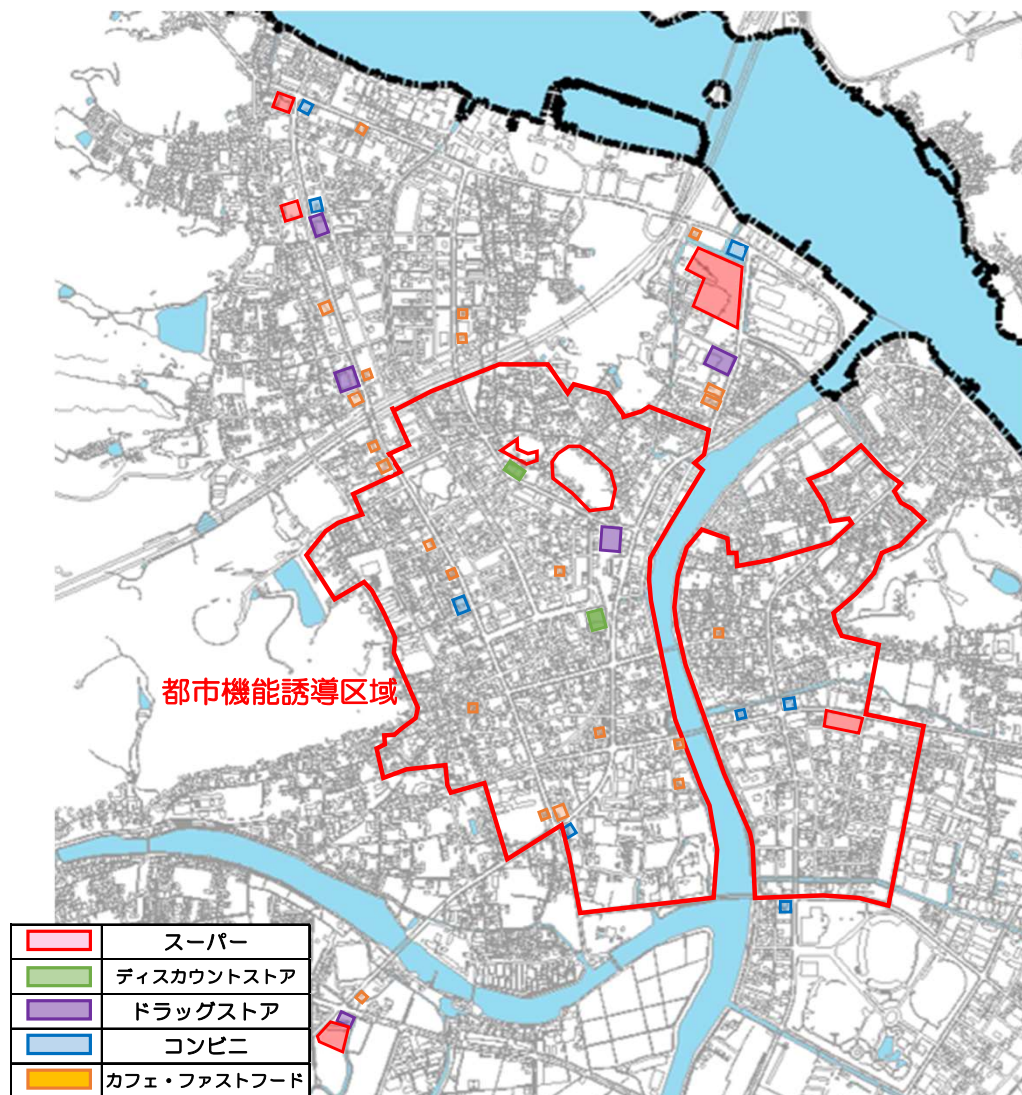
誘導方針

鳴門の顔となる中心拠点の充実
市内の多核の維持とネットワークの強化
安全で便利な場所への居住誘導



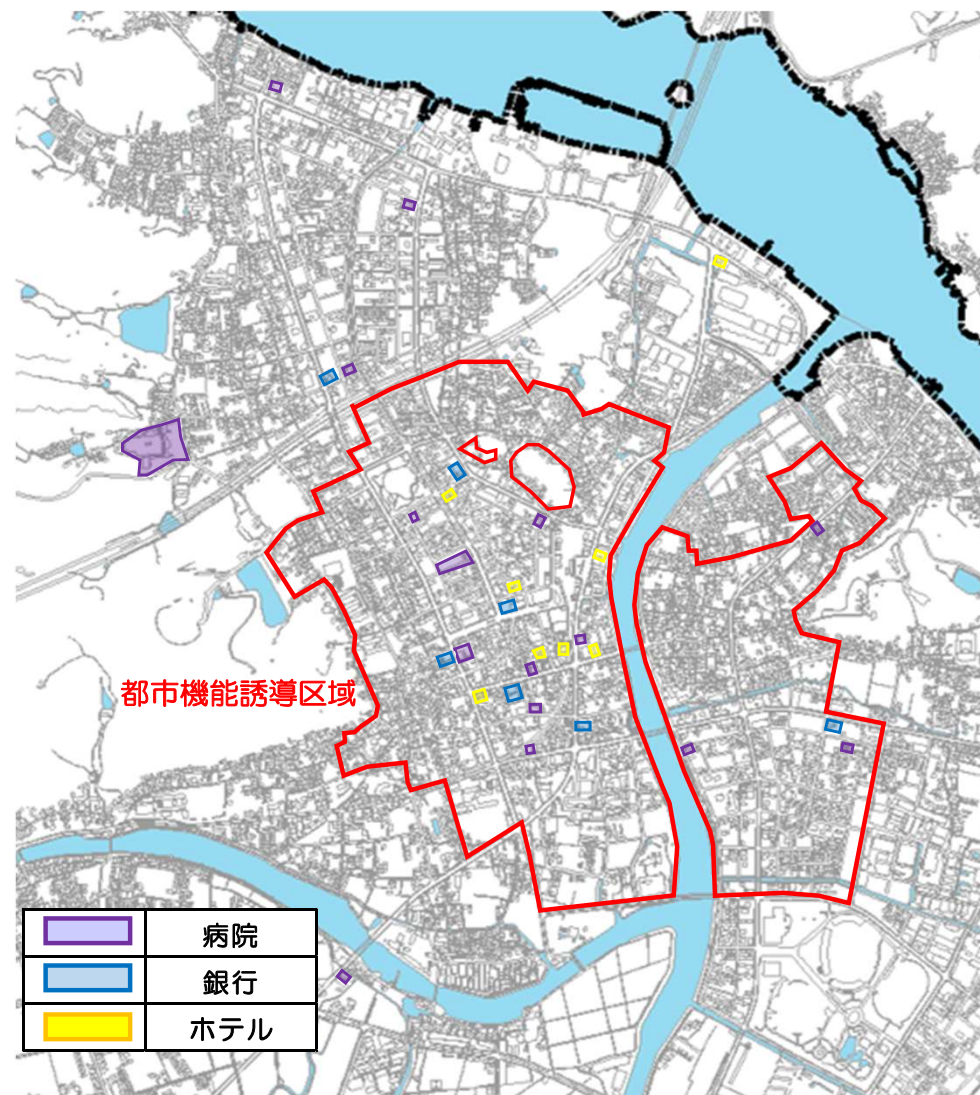
都市機能の分布状況

商業施設（食品系）・カフェ・ファストフード



商業機能は幹線沿いに立地し、逆に市中心部はスポンジ化が進行しています。

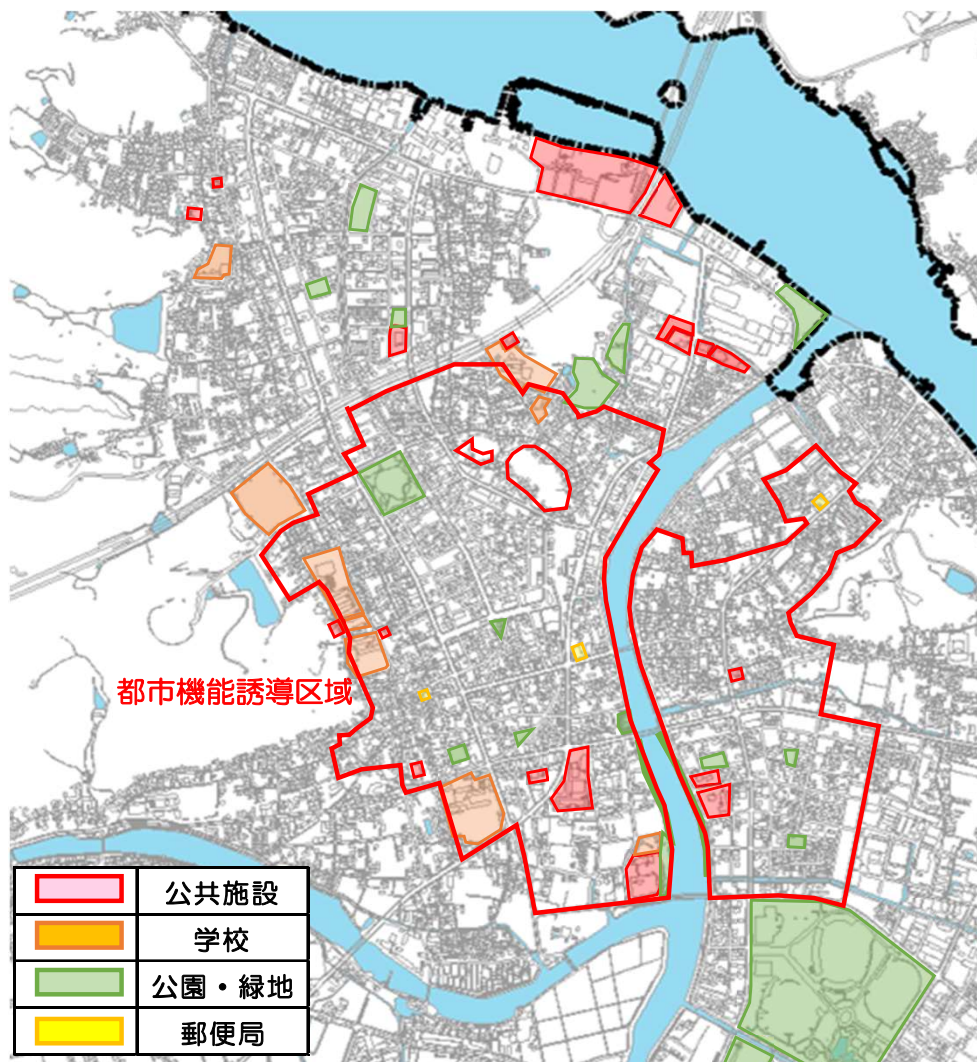
病院・銀行・ホテル



病院は誘導区域内に、銀行やホテルは主に誘導区域内の鳴門駅周辺に立地しています。

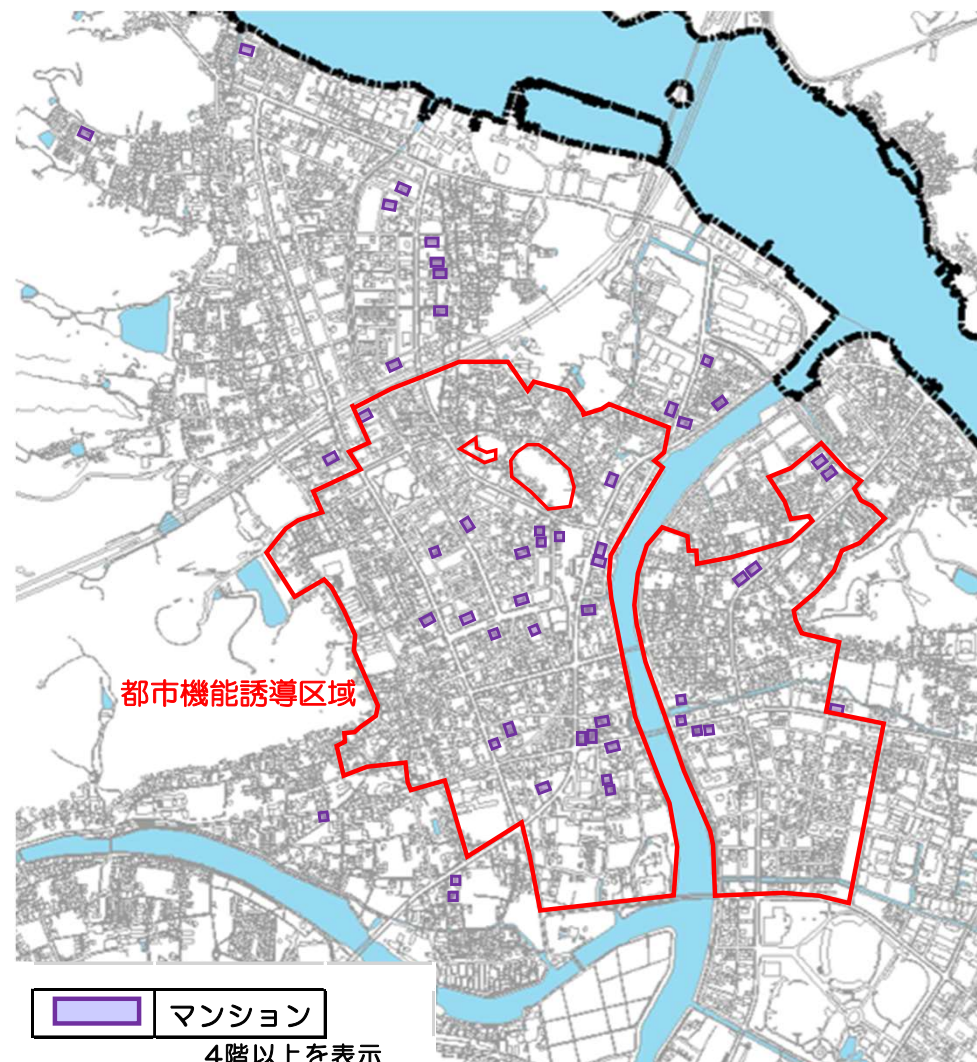
都市機能の分布状況

公共施設・公園・学校・郵便局



公共施設は誘導区域の南部に集中して配置され、公園施設は、誘導区域内やその周辺に立地しています。

マンション



マンションは中心市街地に多く立地し、周辺部では少ない。築30-40年経過している物件が多い。

鳴門市内の公共施設整備状況



鳴門市内では、近年において公共施設の建替えや改修が進んでいる。その他にも小学校・中学校では耐震改修等防災対策が完了している。

重点まちづくり区域では、市庁舎が2024年度に建替えが完了し、現在周辺の道路整備などが進行しているほか、鳴門市文化会館やその北隣にある健康福祉交流センターでは2年後の完成を目指し、改修工事が進んでおり、賑わいの創出が想定される。

都市軸案について(前回の方向性)

【現在のまちの形での検討】

人口減少の中で街の機能を維持するには、希薄な市街地のコンパクト化が必要

都市機能誘導区域内の2つの核エリア

駅周辺商業エリア ⇔
文化会館周辺行政・文化エリア
⇒ 2つのエリアを繋ぐことにより
賑わいと憩いの生み出す

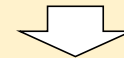


撫養川沿いに新たな都市軸

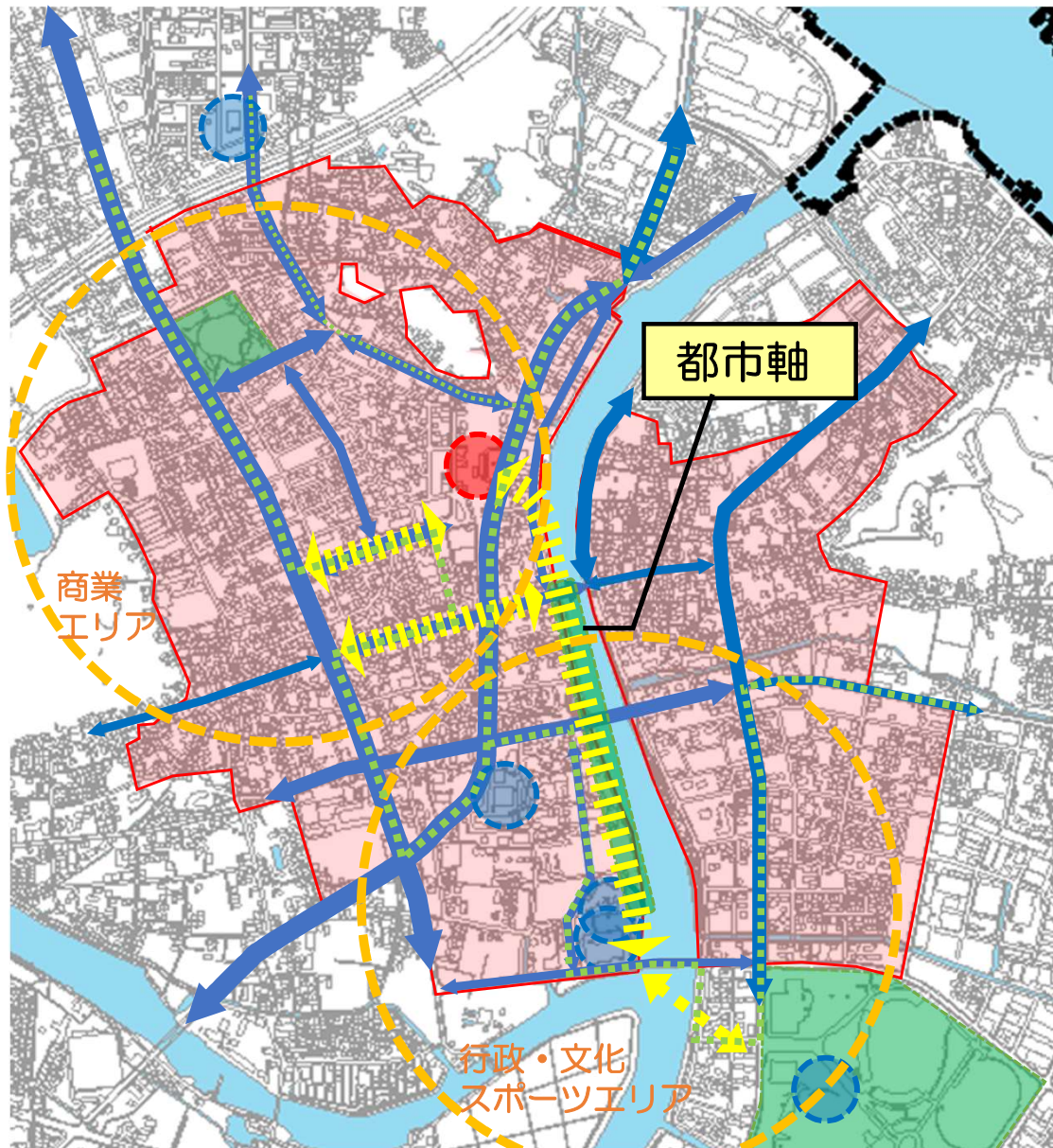
商業エリア内の2本の東西軸

- ・ 斎田鳴門駅線
- ・ 斎田撫養駅線（商店街）

⇒ 衰退化が進行する軸に
人・車の流れを引き込む

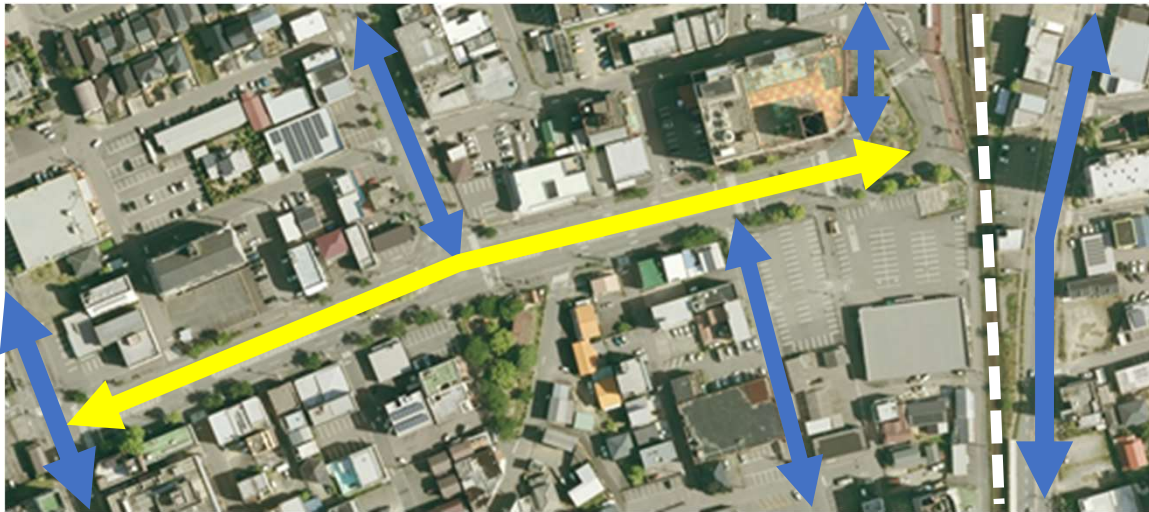


強化すべき2つの東西軸



	都市機能誘導区域		公共施設
	新たなまちづくりエリア		駅
	地域バス路線		道路

東西軸の強化（斎田鳴門駅線）



平日の午前中の状況



阿波踊り期間中の
栈敷席設置状況

【現在の状況】

- ・片側2車線の幅広道路、中央に市内循環バスのバス停
- ・交通量は片側約900台/12h
- ・阿波踊りの際は車道に栈敷を配置
- ・西側は黒崎バイパスと接続しているが、東端側は軌道敷があるため、方向を北へ転換
- ・店舗や銀行が立地するも、閉店している店舗もある



【課題】

- ・車道は2車線必要か？
- ・流れを生み出す仕掛けが必要では？
- ・東端での国道との未接続が、流れが停滞の原因では？
- ・駅から人が流す方法は何なのか？

【対策例】

車線を減らし休憩場・
ポケットパークとした例



空き地を広場化し、
賑わいを創出した例

道路ネットワークの検討

ソフト・ハード両面からの
仕掛けが必要

東西軸の強化(大道銀天街)



平日午前中の
状況



大道銀天街内に
新しく出来た店舗

【現在の状況】

- 片側2車線、駐車可能な路側帯、歩道にはアーケード
- 交通量は1,200台/12h
- ほとんどが店舗兼住居であり、閉店している場合でも、階上に居住している場合がある
- 銀行や郵便局があり、集客を誘引している
- 都市機能施設の改築や新店舗も出来つつある。
- 100円商店街や納涼祭を実施している



【課題】

- イベント時などは、安心して置ける駐車場が必要では？
- 空き店舗を活用するには？
- イベント以外の日も、人が商店街を歩くには？
- 緊急時の避難場所は？

【対策例】

イベントや賑わい
リノベ改修に
対する支援



居住者と出店希望者が
繋がるシステムの
構築・支援

駐車場の集約再編と高質化

官民連携した賑わい創出
リノベーション等の活用

強化対策の例

車線を減らして休憩場とした例 (静岡県沼津市)

街路空間の新たな使い方として、3週間車線を規制し、歩行者空間へと転換。あったらいいなと思える居心地の良い空間づくりを実験的に実施。



車線再編により歩道を拡幅した例 (福井県敦賀市)

バイパス完成による交通転換を踏まえ、4車線を2車線へ再編。歩道と駐車場をつくり、歩道において、官民連携での賑わいづくりを実施。



エリア価値を上げ、周囲に波及させた例 (佐賀県佐賀市)

エリアを絞り込み、まちの変化の密度を高めることでエリアの価値を上げ、それを周囲に波及させていく。

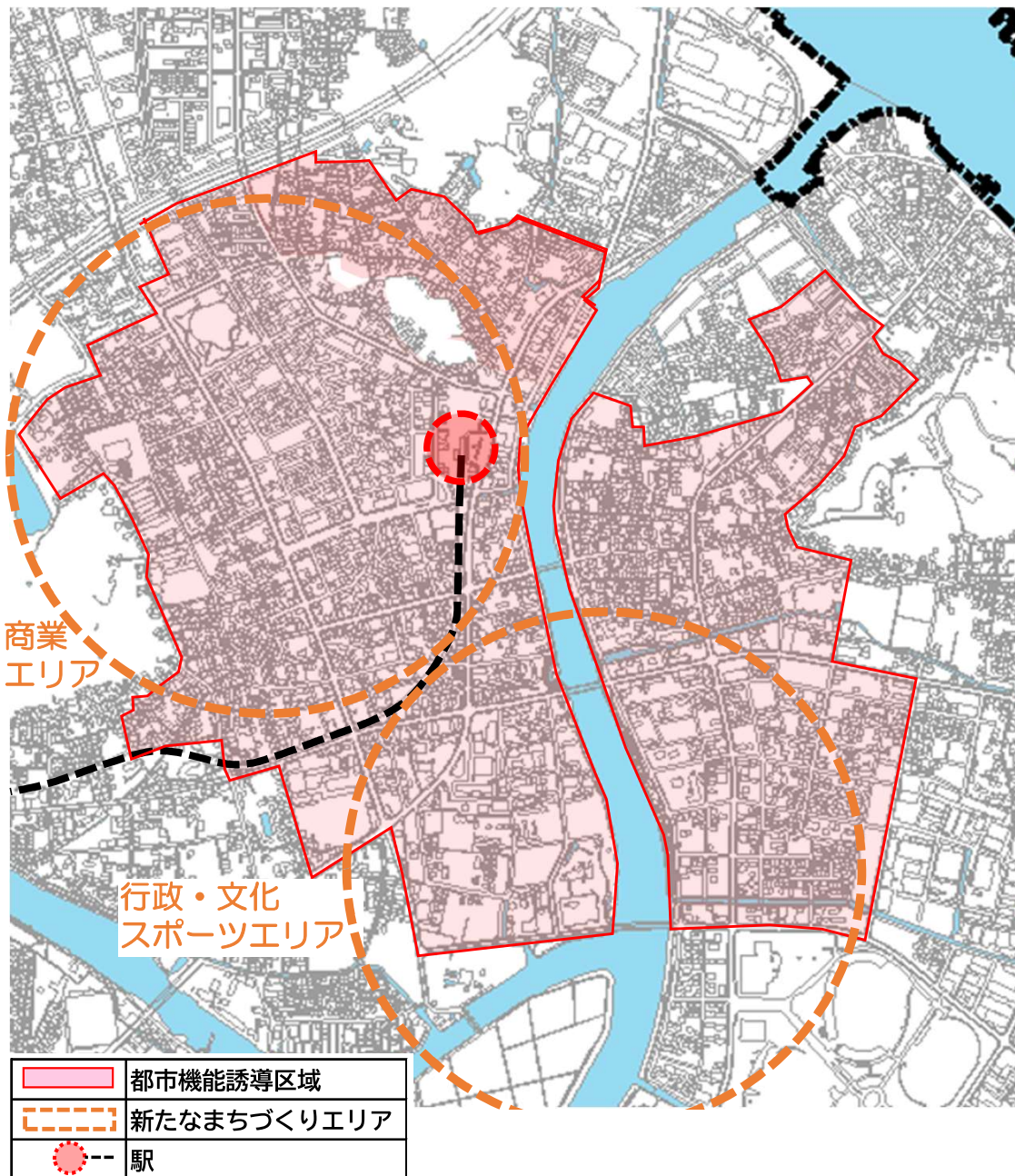


フラットな道路で歩きやすさを演出した例 (兵庫県神戸市)

歩車道をフラットで一体的な形状とした道路空間と、占用料を減額し、テラス営業を誘導することにより魅力的なストリートを生み出した。



まちのコアとその周辺との関係



まちのコアが果たす役割

- ・ 鉄道の乗降口
(人流の出発到着点)
- ・ 交通結末点
(ロータリー・乗換機能)
- ・ シンボル機能
(広場・待合せ場所・モニュメント)
- ・ 賑わい創出
(商業・飲食・サービス集積地)

様々な機能を持ち合わせ、
都市機能の拠点やシンボルとして
重要な役割を果たす



駅完成から50年
車社会への変化
地方創生・ICT

鳴門駅周辺も、時代に沿った
機能・構造・場所・付帯施設を
実装させていく必要がある。

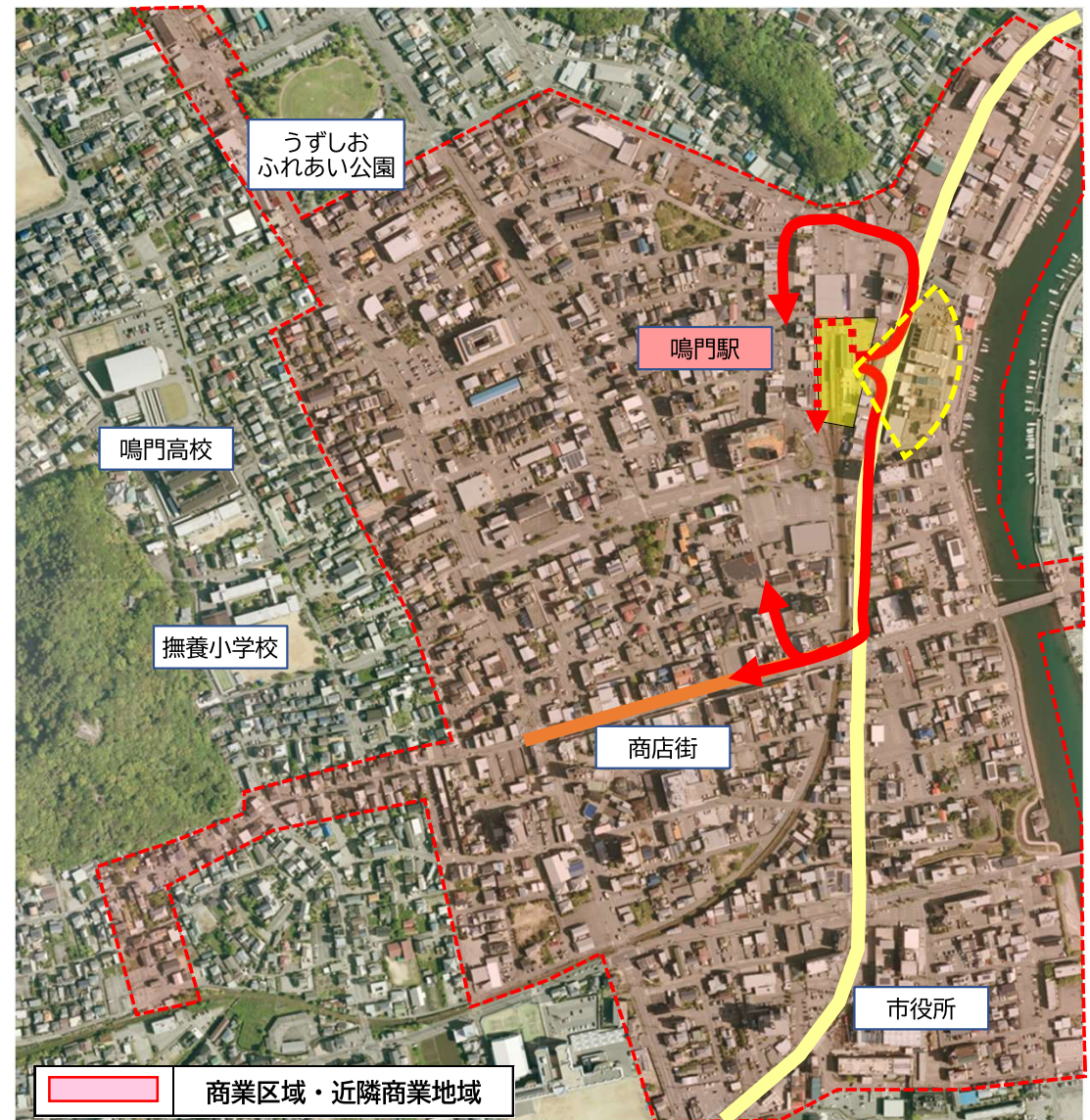
まちのコア(鳴門駅周辺)の状況

- ・鳴門駅は、南北に貫く国道28号線がある東側に向き、駅前ロータリーが設置されているが、商業区域や量販店、学校等は概ね駅の西側に立地している。
- ・駅の位置は、商業区域の北側に位置し、重心から外れている。
- ・人流は、駅を東側に出たから市街地一円に流れており、駅西側へは駅の南北より回り道をしている

構造的問題の解決するため、西側に繋がる歩道を平成30年度に整備したが、車の動線は、そのままであり根本的な解決とまでは至らず



駅がまちを向いていない？
まちの中心とコアの関係性は？
専ら鉄道乗降客のみが利用？



まちが持つ潜在的なポテンシャルを活かせていない

駅周辺とまちの関係① (丸亀駅)



- 駅の南側に商店街があり、その先には市役所・交流施設のほか高校、観光地の丸亀城が立地しているさらに、中心部に新ホールを建設中である
- 交流施設（マルタス）は、高校と駅の間位置し、多目的ホールのほか、カフェ、学習スペースやキッズスペースを備える



交流施設
マルタス



駅が街を向き、街へ人流を流すポンプの役割を果たす

駅周辺とまちの関係② (徳山駅)



- 駅の北側に新たに賑わいや交流の創出を図る拠点となる複合施設を整備、ロータリーを再整備
- 駅の北東部に隣接して商店街と再開発ゾーン、駅から北へ向いて商業・行政・文化教育施設が立地
- 駅エリアの整備を先行することで、駅周辺の人流が増加し、その波及が周辺の活性化に繋がる



駅前広場と駅前図書館

駅は街を向いた新たな賑わいの中心

駅が西側へ開く効果

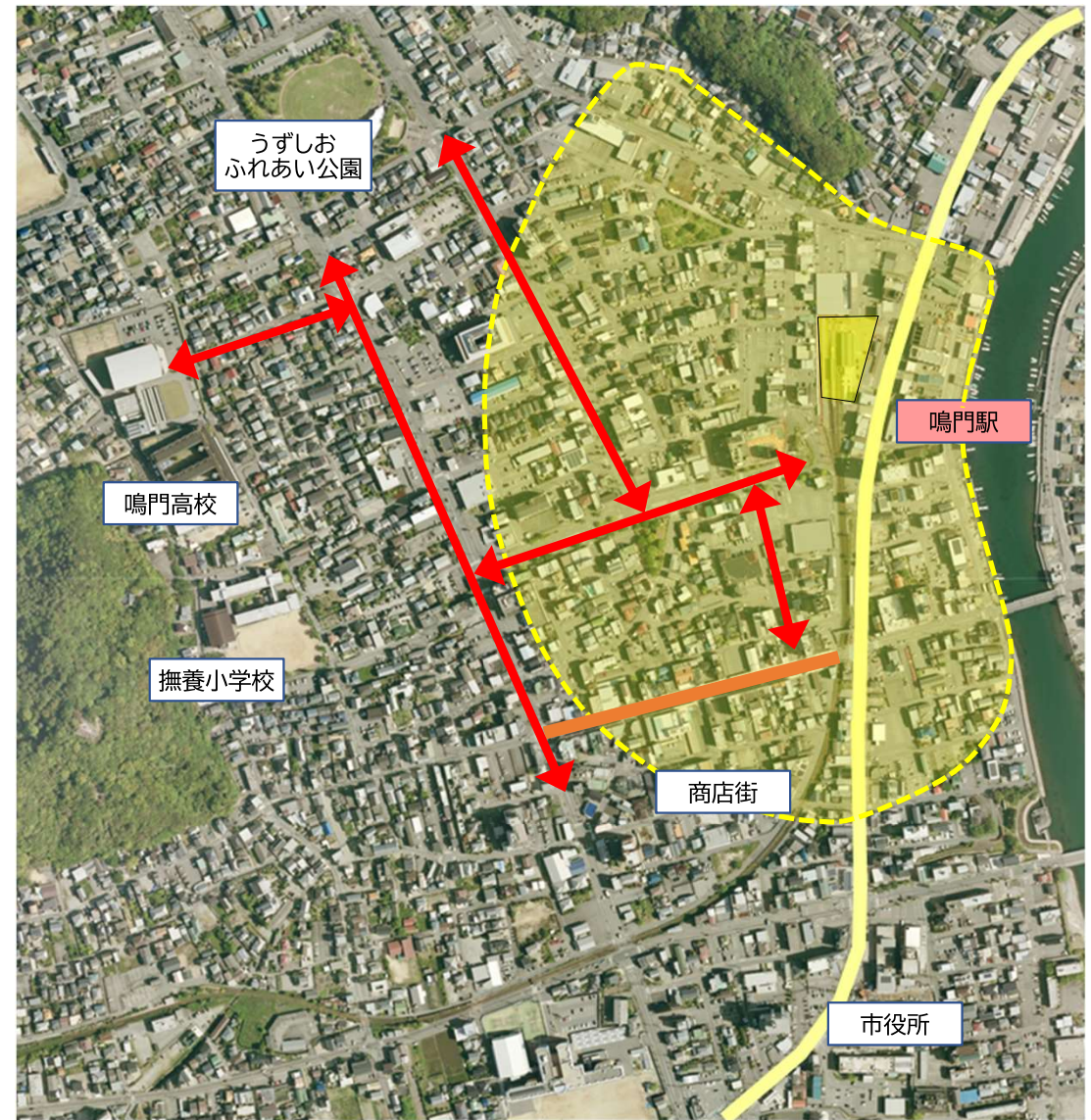
駅がまちに向いたらどうなる？

- 駅が街と正対することによるアクセス性の向上
- 駅と斎田鳴門駅線、商店街の近接性が向上することによる街なかの回遊性の向上
- 駐車場を整備し、車と公共交通を融合した駅へと進化させ、周辺一帯をウォーカブルなまちへと推進

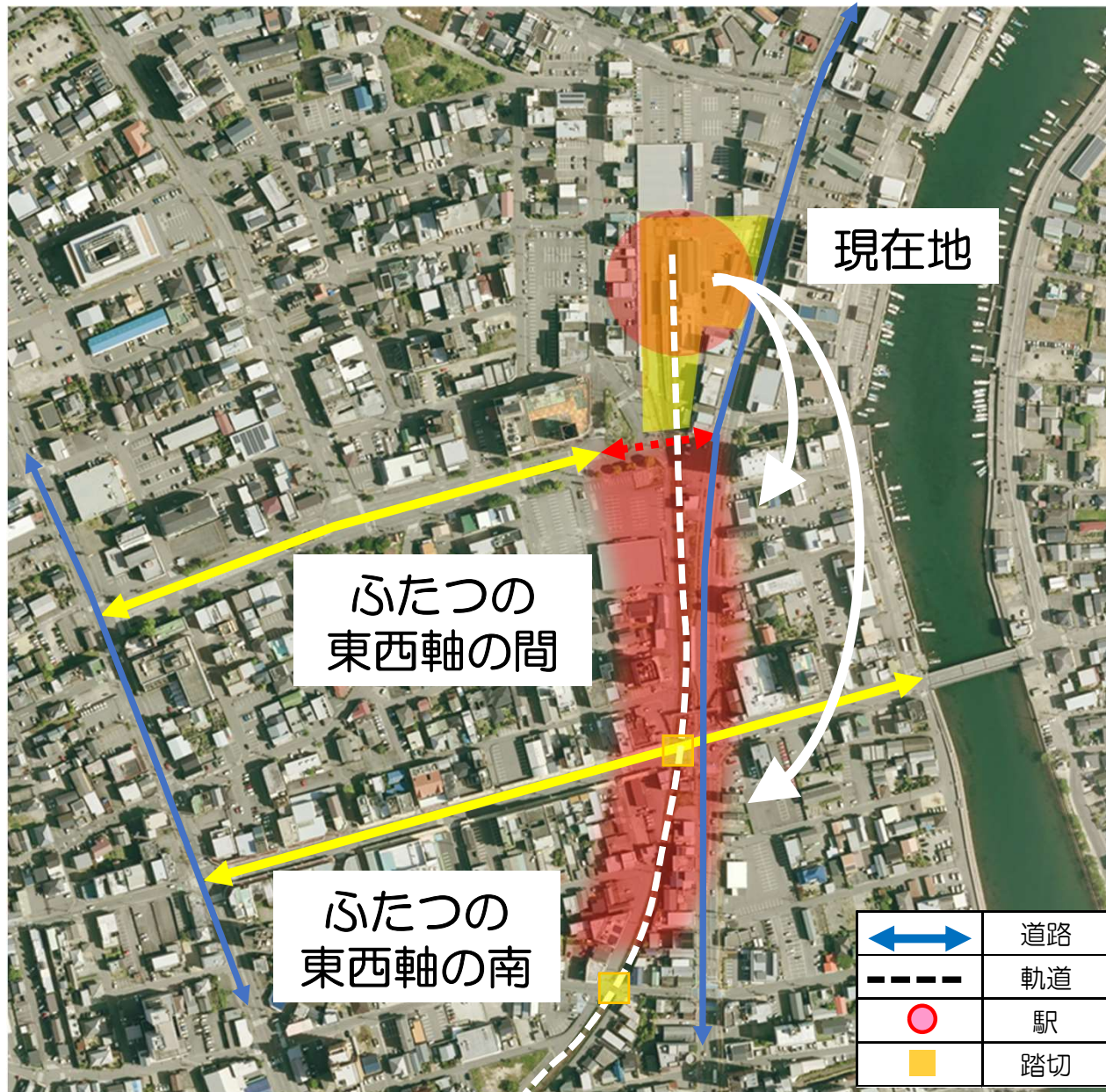
若い人が欲しがるコンテンツを新たに駅周辺に装備することにより
鳴門駅を中心とした
新たな人流が生まれる？

駅西への人の流れで、街にブーストを掛ける

コアの位置は？



まちのコアの位置を考える ①



市街地の
都市構造を変えると？
まちのコアと周辺の
位置関係を変えると？

設置要件

- ・ 現軌道上であること
- ・ 商業エリア内であること

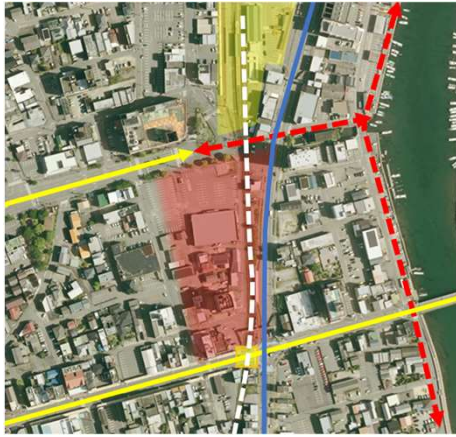
検討要件

- ・ 駅とまちの関係性
- ・ 駅と道路の関係性
- ・ 交通結束機能の確保
- ・ 鉄道の技術的可能性
- ・ 周辺の発展性



コアが どの場所にあれば、
都市構造が活性化し、
民間投資を誘引できるか

まちのコアの位置を考える ②

コアの位置	現在地	ふたつの東西軸の間	ふたつの東西軸の南
航空写真			
街構造	現在位置と同じ 2本の東西軸の北側	2本の東西軸の間	2本の東西軸の南側
メイン ストリート	斎田鳴門駅線 (踏切の新設は不可)	斎田鳴門駅線 → 撫養川	斎田撫養駅線 (商店街) → 撫養街道
サブ ストリート	—	斎田撫養駅線 (商店街) → 撫養街道	撫養川沿い
波及効果	現駅西側への入口が 向くことによる効果	通りが抜けた場合、 撫養川沿いへの効果 民間投資誘導の可能性	現駅東南側街区や 撫養川沿いへの効果 民間投資誘導の可能性
現駅の 土地は	—	新街区 + 駐車場	新街区 + 駐車場
現線路の 土地は	—	新駅舎	新駅舎 + 遊歩道・緑道

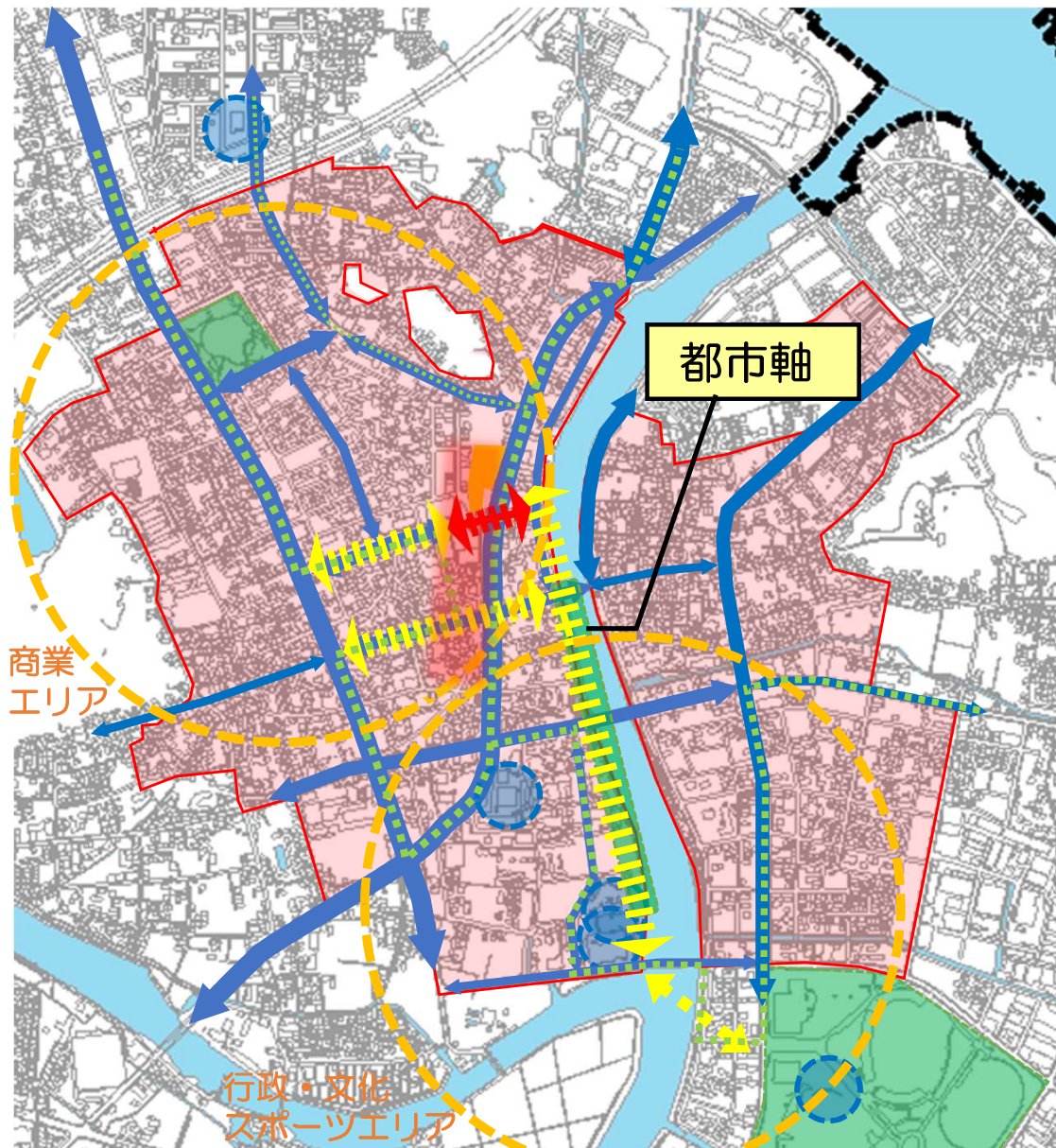
新たな都市構造・都市軸の姿(たたき)

【まちの形はどうなるのか？】

2つの東西の都市軸の間もしくは南側にコアが入ることにより、より街がコンパクトに集積され、まちの地理上の中心とコアが近づく。

また北側の東西軸を国道から撫養川まで一直線に貫くことにより海（河川）と近接するため、水上交通との交通結末点や川沿いの再整備の可能性が想定される。

北側の東西軸は、踏切が無いため、東西の流れが活性化され、東西軸沿いの商業区域や既存駅があった新たな敷地に、賑わいの創出を促すことができる。



	都市機能誘導区域		公共施設
	新たなまちづくりエリア		駅
	地域バス路線	↔	道路

ウォーターフロントの活用案(撫養川)

撫養川沿いの水辺空間を活用し、ウォーターフロント（かわまち事業）の活用が考えられます。

公民連携エリア リノベーション応援事業

令和6年度から新規事業として、様々な民間団体との連携を図りながら、撫養川親水公園から新庁舎周辺の公共エリアにおいて、マルシェ等の公民連携事業を継続的に実施し、賑わいの創出やエリア価値の向上を目指す。



令和6年9月29日
NARUTO shore marche

河川空間のオープン化

鳴門駅から文化会館周辺を繋ぐ、撫養川沿いの河川空間について、水辺空間を活かした賑わい創出を図るため、河川敷地占用許可制度（河川空間のオープン化）を活用し、撫養川親水公園などの河川エリアでのイベントの実施を目指す。



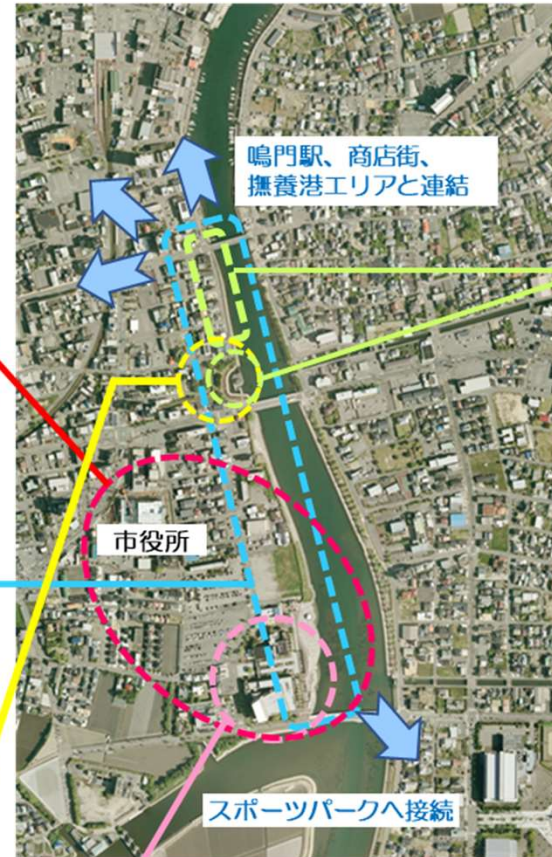
撫養川親水公園

ウォーターフロントの 中心地へ

利用されていない周辺の市施設や所有地について、再整備することにより、ウォーターフロントの中心となる広場や駐車場など多機能な利用への可能性がある。



未利用施設



鳴門駅、商店街、
撫養港エリアと連結

市役所

スポーツパークへ接続



公民連携により
居心地が良く
歩きたくなる
空間を

川沿い癒し 空間の構築

老朽化により、現在使用禁止である川沿いの遊歩道や浮桟橋について、ウォークアブルな空間を目指し、設置者である徳島県と今後の活用方針（修繕・

撤去・新たな構造物の構築等）について協議中である。



ポンツーン（浮桟橋）

文化エリアのコンバージョン

撫養川沿いに立地する鳴門市文化会館や健康福祉交流センターは、令和9年度に開館に向けて、再整備を進めており、開館後は新たな賑わい場所の創出が想定され、川沿いとの融合が期待されます。

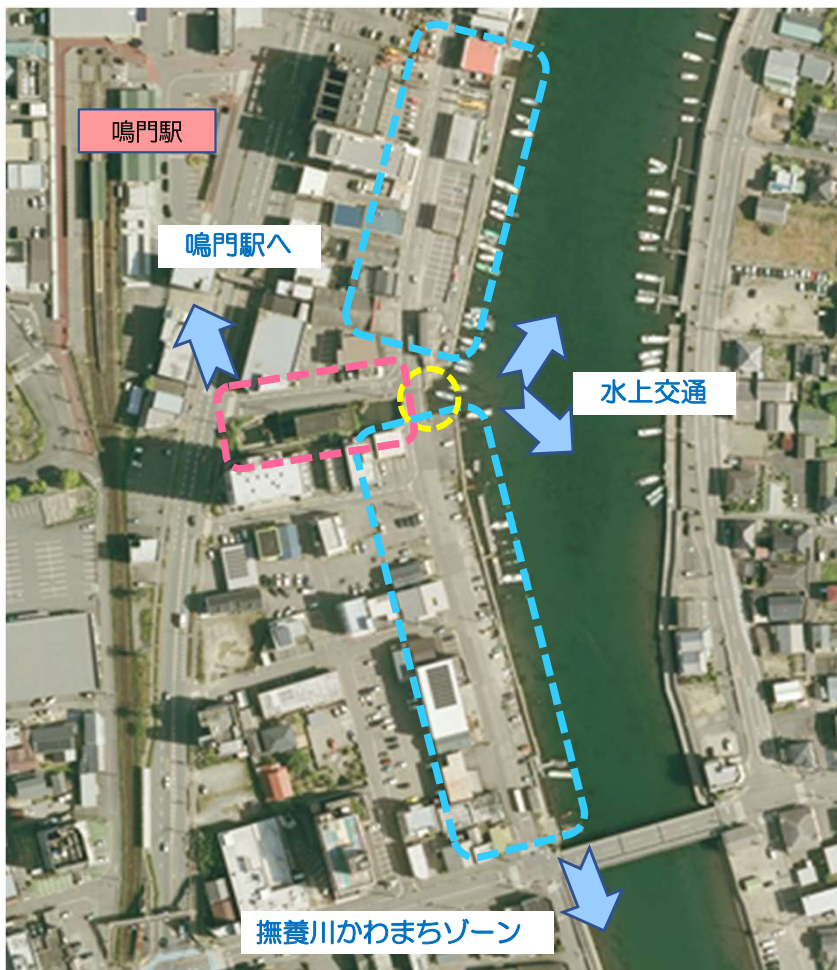


鳴門市文化会館

ウォーターフロントの活用案(撫養港)

過去に北前船の中継地として栄えた撫養港のうち、鳴門駅周辺の地域は中心市街地に近く、賑わいを創出できる可能性があります。

港や川の心地よい風景を利用し、撫養川沿いのウォーターフロントとの接続、さらに市役所・鳴門市文化会館、その先のスポーツパークへと向けての新たな人流を作り出すことなどが考えられます。



港湾区域周辺の利活用

港湾施設周辺の空き家や未利用地について、リノベーションやポケットパークなどに転換することにより、新たな賑わいの要素としてのポテンシャルを秘めています。



撫養港周辺状況

水上交通との結末点へ

港湾施設の利点を生かし、陸上交通と水上交通の起点・結末点としての可能性があるエリアです。



美奈登橋

未活用市有地の利用

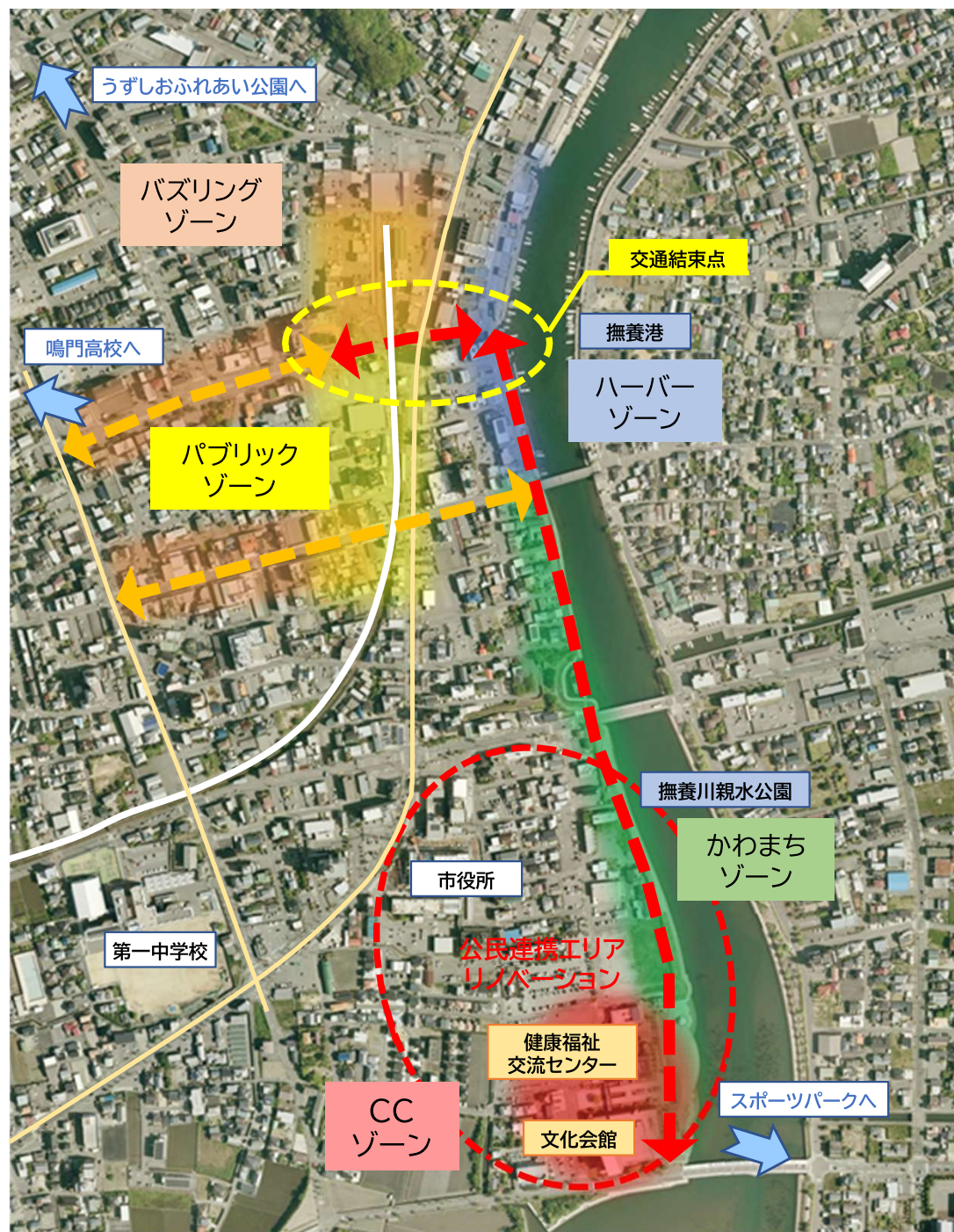
現在廃止された排水機場を除却し、水路部分を新たな利用可能地として交通や公園などの機能の活用を目指します。



旧排水機場

都市軸と連動したゾーニング案(たたき)

③都市構造と都市軸、
まちのコアと周辺の関係



まち区域

バズリングゾーン
様々な活動による活性化ゾーン
イベント広場・チャレンジショップ・
アクティビティゾーン・無料駐車場



パブリックゾーン
まちの顔となる交通結束点
新駅舎・駅前ロータリー・駅前広場・
案内所・土産売場・交流公共施設



都市軸

かわ区域

ハーバーゾーン
海と歴史を繋ぐ撫養港ゾーン
港湾倉庫リノベーション・親水施設・
ポケットパーク・水上交通発着点



かわまちゾーン
撫養川沿いの親水と癒しのゾーン
水辺癒し空間・公園・野外ステージ
川沿いイベント空間



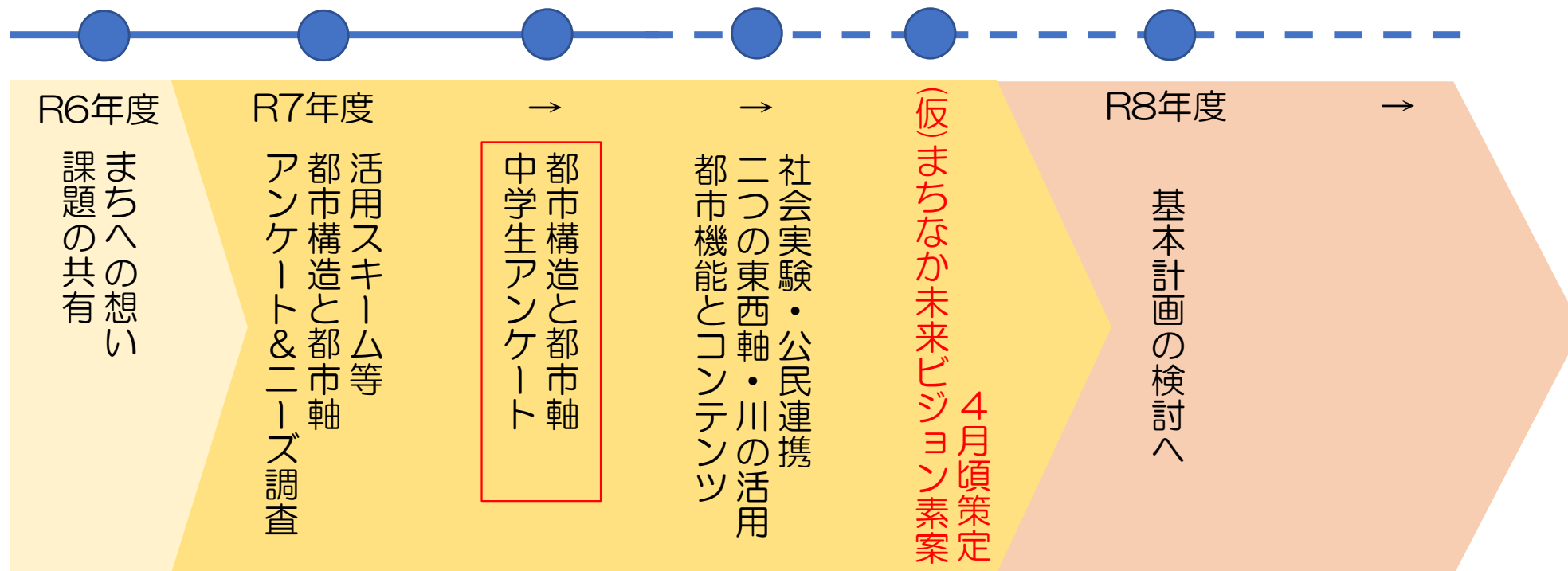
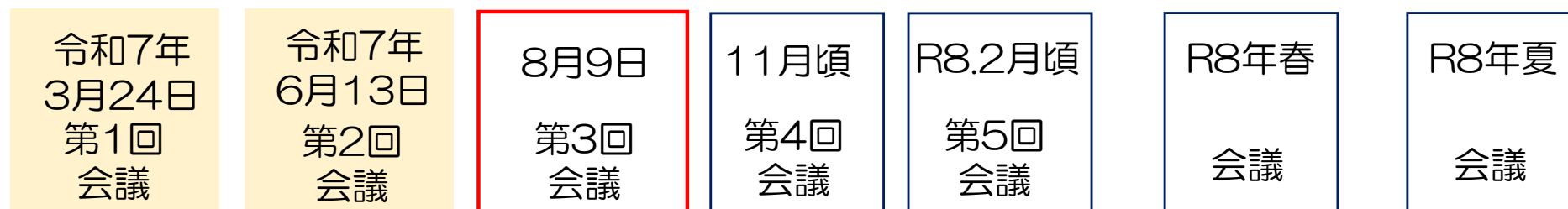
CCゾーン
文化cultureと
子育てchildcareのゾーン
鳴門市文化会館・健康福祉交流センター



終着駅から始まる
海へとつながる
新しい鳴門の物語



デザイン会議 ロードマップ案



ニーズの把握・課題抽出

→ → → → →

各論検討・イメージ案づくり



設計・施工へ

(仮称)まちなか未来ビジョンについて

(仮称) 鳴門市まちなか未来ビジョン

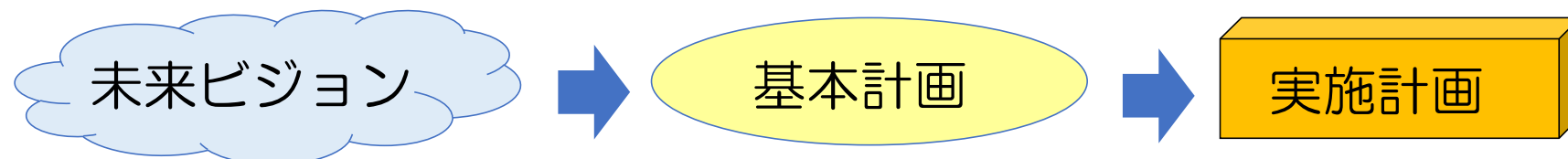
未来ビジョンとは・・・ エリアの将来像を官民の多様な人材が共有できるようイメージ化

- 令和7年度中に素案を作成、令和8年4月頃の策定を目指す

- アウトライン
 1. 未来ビジョンについて
 2. まちの現状と課題
 3. まちのめざす姿・方針・目標
 4. エリアビジョン（商店街・駅前・撫養川周辺等）
 5. まちのイメージ図（共有するイメージパース）
 6. ビジョンの進め方・まず始めるプロジェクト



ビジョンイメージ例



次回会議(第4回)の概要

○ 都市機能とコンテンツ

- ・どのような機能が必要とされるのか
- ・未来に向けたコンテンツとは

○ 2つの東西の都市軸

- ・街の構造や交通機関との繋がり方
- ・人の流れを変えるには？ 実践する商店街の事例

○ 川の活用方法

- ・都市に必要な川の空間、水辺空間の価値
- ・川を利用したまち整備

○ 街なかでの社会実験

- ・駅前でのトライアル、試みる手法の検討

○ 公民連携の推進

- ・ベースとなる体制づくり、市及び民間が行う内容



第4回会議は令和7年11月に開催予定です。

鳴門市まちづくりデザイン会議

